

秋の園芸作業

市原 菊恵

九月上旬は、日中、夏の暑さが残っても、夜は日毎に気温が下がり、中旬を過ぎた頃からはずっとしのぎやすくなってきました。植物も暑さから解放されて生氣を取り戻し、又元気に活動を始めます。秋は春に次いで植え替え、株分け、種蒔き、球根の植え付け等、いろいろな作業ができる時期ですが、次々とやってくる台風や、真近かに控える冬にそなえ、本格的な寒さが来る前に、充分新しい根が張れるように、作業を進めましょう。

〈観葉植物〉

上旬は熱帯や亜熱帯がふるさとの植物でもその大部分が最も良く生育するのは20度〜26度C位ですから、この時期は少々暑さで株が疲れ気味です。涼しくなり出したらしっかり手入れをして丈夫な株に育てておくと、苦手な寒い冬も元気にのり切ることができます。

○水やり

上旬はまだ夏日もあり、気温が高いので良く乾きます。鉢の土の表面が少し乾き始めたらずくに水をやりま

す。薄くて広い葉を沢山つけている植物や、吊り鉢、鉢の割に植物が繁り過ぎているもの等は、水切れを起こしやすいため注意しましょう。冷房が入っている室内では湿度不足になりがちなので、鉢土を湿らすだけでなく、葉にもスプレーを吹きかけて湿度不足を補うようにします。中旬を過ぎ秋の気配を感じる頃からはずっと乾きかゆるやかになってきますから、この頃からの水やりは、鉢土の表面が白く乾いてからにします。与える時は鉢穴から水が抜け出るまで充分な水やりをします。こうすると、土と土の粒子の間に水が通って行く時に、古い空気を鉢の外へ押し出し、水の通った後からは新しい空気が土の間に入って行って根が新鮮な空気にふれ、良く伸びるようになります。ですから、乾きの激しい夏の間以外は、鉢皿に水を溜めておかないことが望ましいのです。

○置き場所

直射日光の下で美しい斑^{ふく}が鮮やかに色づくクロトンや、強い日光を好むガジュマルやインドゴムノキ等は引き続き日当たりの良い所に置きますが、中旬頃からは強

い日光をさけていた種類の植物も少しずつ光に慣らして行き、下旬からは特に弱い光を好む種類以外は良く日に当て、ガッチリした株に育てておく冬越しが楽になります。十月いっぱいまでは屋外の自然の条件下で育てられますが、気温が下がるにつれて生育がゆるやかになってきますので、高湿を好む種類から順に良く日の当たる室内に取り込むようにします。最低気温が15度Cを切り始めた頃を目安にします。室内に暖房が入る前ですと戸外と屋内の温度差がそれ程ない時期なので植物も環境の変化に適応しやすく、室内の環境に慣れた頃、暖房が入るようになると植物のトラブルはずつと少なくなりまします。そしてこれからは日当たりだけでなく、植物の耐寒温度を考慮に入れながら置き場所を決めることが大切になってきます。

○肥料

十月までは生長期に入っている為、肥料は与えますが、与える量は春の半分の量に減らします。水に溶かしてやる速効性の液肥は規定の倍に薄め週に一度ずつ水や

光線量別一覧表

強い日光を好むもの	ガジュマル、ベンジャミン、サンセベリア、クロトン、ストレリチア、インドゴムノキ、ユッカ、パキラ、フェニックス、シェフレリア
日陰を好むもの 中位の明るい	ポトス、スパシィフィラム、モンステラ、シンゴニューム、トラディスカンチャ、アスパラガス、オリヅルラン、ブライダルベール、ツディシダ、マランタ、アフェランドラ、サクララン、アンスリウム
弱い光でも育つもの	ピレア、アグラオネマ、ペペロミア、フィットニア、アジアンタム、エビスシア、プテリス、ディフェンバギア、タニワタリ、フィロデンドロン

耐寒温度一覧表（越冬に必要な温度）

10度C 明け方	アグラオネマ、フェランドラ、アロカシア、アンスリウム、クロトン、ディフェンバギア、フィットニア、ペペロミア、エビスシア
6度C	アカリファ、アナナス、ガジュマル、カラジューム、カラテア、ドラセナ、フィロデンドロン、ペリオニア、マランタ、ポトス、サンセベリア、スパシィフィラム、ストレリチア、パキラ、ベンジャミン、シェフレリア、シンゴニューム
以上 0度C	アイビー、アジアンタム、アスパラガス、オリヅルラン、インドゴムノキ、タニワタリ、タマシダ、テーブルヤシ、フェニックス、サクララン、プテリス、トラディスカンチャ、ピレア、ブライダルベール、ツディシダ、ユッカ

りをかねて与え、鉢の表面に置く緩効性の固型肥料は月に一度与えます。それ以降は気温の低下と共に根の活動がぶくぶくなって行き、肥料を吸わない休止期に入る為、春まで肥料やりは休みます。ですが、建物全体が一年中コントロールされている集合住宅では、冬でも明け方の最低温度が10度Cを下がない場合も多く、こうした場合は液肥のみを春まで与えます。秋からの肥料やりのコツは、濃いものをさけて、薄いものをこまめに与えることと、寒さに負けない丈夫な株にする為に、カリ分の割合が多いものを選ぶようにします。

○整姿

夏の間に伸び過ぎた枝やつるは、株全体の形を整えながら切りつめます。これからの時期は日一日と気温が下がるので、春の様には伸びません。ですから乱れてバランスを崩している部分のカットにとどめます。枯れ葉や痛んだ葉も取り除きましょう。カットした枝やつるは上旬の早い時期にさし芽をすれば良く根づきますが、遅くなるにつれて根づきが悪くなってきます。

○植え替え

大きく育って鉢とのバランスが悪くなり、少しの風にも倒れやすくなったものや、鉢穴から根が沢山伸び出しているような鉢は、根が鉢の中にいっぱい張っていて、水をやってもすぐに乾きますし、肥料も吸いにくくなっているので植え替えが必要です。又、水をやっても回復せず、さらにぐったりとしている株は根腐れを起こしている場合が多く、見つけ次第、早く植え替えないと手遅れになってしまいます。いずれも十月上旬までにすませます。

〔植え替えの方法〕

用意するもの……一、二回り大きな鉢、赤玉土の大粒、

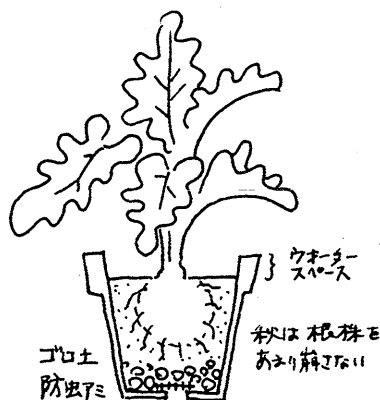
赤玉土の小粒5・腐葉土3・バーミキュライト2の割合

の混合土（市販のミックス培養土でも可）、防虫

ネット、古菜箸、土入れ、ハサミ。

手順

①左手で鉢のふちを持ち上げ、右手のこぶしで鉢のふちをトントンたたいて植物を鉢から抜きとります。



セロームの植え替え

- ② 根株の回りの土を箸で少し落として根を露出させます。こうすると新しい土に根が伸びやすくなります。
- ③ 鉢穴に防虫ネットをしき、排水用の赤玉土の大粒を2、3 cm 入れます。これには素焼鉢の破片でも、発砲スチロールでもかまいません。
- ④ 用土を1、2 cm 入れ、株元が新しい鉢の八分目あたりになるように株元の位置を注意しながら根株を鉢にセットします。株元から鉢ふちまではウォータース

ペースといって、水やりの時にいったんここに水が溜まるものの、その水が鉢外にこぼれ出ることなく鉢の中に納まって行く為の大切な空間です。これが少ないと後で水やりに大変苦労することになります。

⑤ 根株と鉢のすき間に株元まで用土を入れ、鉢のふちを両手で持って二、三回軽く床に上下させ、株を鉢に落ちつかせます。

⑥ 株元から静かに水やりをします。始めは泥水が沢山出てきますが、きれいな水になったら用土全体に水が通り抜けたしるしです。

〔植え替え後の管理〕

雨や風の当たらない明るい日陰に四、五日置いて、葉先がピンと元気なら少しずつ日に当てて行きます。植え替え後十日位から肥料やりを始めます。根が新しい鉢に張るまではあまりあちこち動かして株をぐらつかせないように注意しましょう。

○アジアンタムの再生法

涼しげで優しい感じのするアジアンタムは一年を通じ

て人気の鉢物ですが、いったん乾かしてしまうとしおれた葉は水上げが悪いので一度にあわれな姿になってしまいます。ですが根は丈夫でまだ生きていますから、又、新たに芽吹かせて仕立て直しをします。

用意するもの……ハサミ、透明なビニール袋。

手順

① アジアンタムの地上部は株元1cmの所で全てカットします。

② 株に充分水やりをしてからビニール袋の中へ入れます。この時ナメクジやかたつむりがいないか確かめましょう。ビニールの口は九月上旬まででしたらむれ過ぎない為に開けておきますが、それ以降は空気を入れてふくらまし閉じておきます。

〔管理〕

ビニール袋は日光が当たらない明るい日陰に置いて乾かさないうようにしていると、やがて小さなせんまいが沢山見えてきます。そして葉を広げ、小さな葉がふれあう程になったら袋から出し、再生の完成です。

《草花》

朝、夕に涼しさが感じられるようになると本来の生育温度になるので、又、良く生育し始めます。園芸店の店先にも又、沢山の種類が並びます。何度も補充しない球根類は、売り出し始めの頃に求めた方が種類も多く、沢山ある中から良い球根を選び求めることができます。

○水やり

花の咲いている株は良く水を吸います。水が切れると咲いている花ばかりでなく、つぼみまで痛めてしまうので、水切れにならないように乾き始めたらずくに水やりをします。

○日光

次々とつぼみをつけるには日光が必要です。又、日光が充分当たらないとその植物本来の花色が出ませんし、これから体を大きくする植物は、ヒョロヒョロと伸びた徒長苗になってしまいます。終日できるだけ日に当てるようにして丈夫な株に育てます。

○肥料

花の咲いている株は肥料切れになると花が小さくなったり、つぼみが少なくなったりします。長く咲き続ける種類は特に肥料切れにならないように液肥は週に一度、固型肥料は月に一度の割で二種類の肥料を併用するとしっかり効いて良く育ちます。

○病害虫

ベゴニアセンパフローレンスの葉に、白い粉のようなものが点々とつくことがあります。これはウドン粉病で、次第に広がって株を枯らしますので、ベンレートを早目に散布します。又アブラ虫には散布する速効性の乳剤の外に、株元に顆粒状の薬をまいて植物にその成分を吸わせ、それを吸ったアブラ虫が死ぬ浸透性の殺虫剤もあります。

○切り戻し

夏中咲き続けて草丈が高くなったサルビアやマリゴールド、咲き進んだ茎が目立つようになったベゴニアセンパフローレンス等は、秋遅くまで楽しませてくれる植物ですから切り戻して姿を整えておくと脇芽が伸び

て、又、にぎやかに咲いてくれます。ですが早目に行わないと芽吹きに時間がかって、結局花が少なくなってしまうから、九月上旬には済ませます。

○秋の草花苗の植え付け

春の時程ではありませんが、秋用の花だん苗が出回ります。夏の間にすっかり花が途絶えてしまっていたら、プランターに好みの配色で植え付け、玄関先に置くと、あたりがばあっと華やいで、活気がよみがえります。

○宿根草の株分け

毎年行う必要はありませんが、三年以上株分けをしない株は、込み合いすぎて日光不足や肥料不足から、元気に育たなくなってきました。株数を殖やしたり、老化した株の更新を計る為にも株分けをします。涼しくなると根が活発に動きだす九月中旬から十月上旬が適期で、寒さがくる前に新しい根が充分伸びるようにします。

〔株分けの方法〕

手順

①株をそっくり掘り上げて根をほぐし、植物によっては

三、四芽ずつ付けたかたまりに分けます。

②耕して準備をしておいた新しい場所に、根が乾かないうちに植え広げ、軽く根元を押さえます。鉢植えでしたら新しい用土で植え付けましょう。

③十分に水やりをして根を土になじませるようにします。

ミヤコワスレやアルメリア、ガーベラ等がこの様な方法で株分けできます。

○マーガレットのさし芽

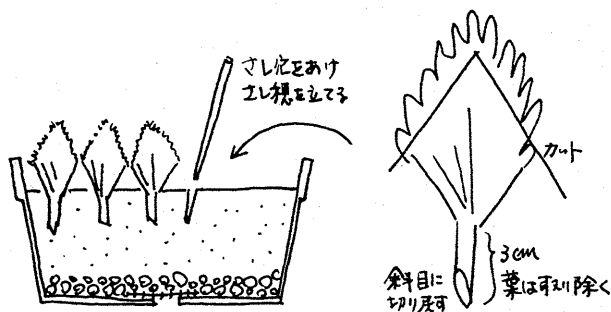
マーガレットは露に当てなければ冬越しをして木質化し、さらに来年は高い所で咲くようになります。低く楽しむには元気な枝先を秋にさし芽としておくと良く根づいていくだけでも殖やすことができます。春に低くいっせいに咲き揃うとそれは見事です。一度ぜひお試しください。

用意するもの……平鉢（イチゴパックでも可）、赤玉土の大粒、赤玉土の小粒とバーミキュライトを等量混ぜたもの、防虫アミ、ハサミ、カッターナイフ、竹ぐ

し、コップ

手順

①平鉢の鉢穴に防虫ネットをしき、赤玉土の大粒をふた並べ入れてから用土を八割まで入れ、充分湿らしてさ



マーガレットのさし床

し床の用意をします。

② 枝先から10 cm位の長さにハサミで切り取り、水の入ったコップにさし立てて20～30分水上げをします。

③ ハサミの切り口よりも1 cm上の所を良く切れるカッターナイフで斜目に切り戻します。

④ 切り口から3 cmは土に埋まるのでこの部分の葉は茎を痛めないように取り除き、葉先も山形に1/3切りつめてしおれを防ぎます。

⑤ 竹ぐしでさし穴をあけながらさし穂がふれ合う程度に鉢いっぱいにして行きます。

⑥ さし穂と用土が密着するように、さし穂の上からハス口を使って静かに水やりをします。

〔管理〕

さし床は強い風をさけて日光に良く当て、乾かないようにしている、しおれ気味の葉がピンと元氣ついできます。東京では霜の当たらない日溜りでそのまま冬越しをしますが、寒い地方では室内に移します。そして春になって霜の心配がなくなつてから植え広げます。

○シクラメンの鉢替え

春から引き続き水やりをして夏越しをしたウェット法の株も、五月以降水を切り、すっかり乾かした状態のドライ法の株も、秋の彼岸の頃に植え替えをします。手順は観葉植物の植え替えと同じですが、古い土は全部落とすことと、球根のようなかたまりの上部が1、2 cm必ず土から出ているように植え付けます。ここが土に埋まっていると葉や花芽の元がくさりやすく上手に育ちません。肥料やりは一週間後から与え始めます。十一月には立派なシクラメンの鉢が店先に並びますが、あの時期に売り出される鉢は、夏の間に高冷地でほとんど育てておいて、寒さが来たら温度をかけて促成栽培や開花調節を行っているからです。自然のまままで育てる家庭園芸では、春になってから咲き出します。

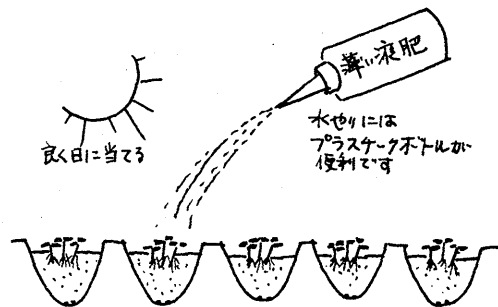
○秋の種まき

袋の説明書にある発芽温度に注意して適期をのがさず蒔くようにします。小さな種袋から植え切れない程の苗が作れます。実際には全てが育つ訳ではありませんが、

それでも多い時には友人にも分けたり、春になってからも蒔けるものは二回に分けて、その違いを体験してみましよう。スイートピーやルピナスの様に移植を嫌うものは、直まきといって咲かせたい場所に直接蒔きますが、多くは、蒔床で発芽したものを植え替え、そして定植し、場合によっては霜除けをします。秋に種を蒔いて冬に大きく育て、春に花を咲かせるまで水と肥料を与えながらの半年は、手間はかかりますが小さな小さな種からの変貌に、きつと見る度、心をかきたてられることでしょう。ぜひお子さんと一緒に蒔いてほしいと思います。

○パンジーのかんたん種蒔き法

平鉢の蒔き床を用意しなくても、家庭内で出るプラスチックの玉子ケースを利用すると、手軽でかんたんな種蒔きができます。ケースには排水用の穴をあけ、用土に少なく蒔いてそこでしっかり小苗を作ってしまうと、次の移植が大変楽になります。九月の上旬に蒔けば年内から元気に咲き出します。



タマゴケースの蒔き床

用意するもの……タマゴケース、金串、赤玉の小粒とバーミキュライトを等量混ぜた土、パンジーの種、細口ジョロ（調味用のケチャップボトルでも可）
手順

①ケースのくぼみの底に、熱した金串を二、三か所ずつ

当てて排水用の穴を開けます。

②用土をくぼみに九割程入れ、種を三粒ずつ中央に重ならない様に蒔きます。

③種が隠れる位わずかに土をかけ、指先で軽く押えて種と土をなじませ、種が動かない様そつと水やりをして用土を充分湿らします。

④発芽してきたら日光に良く当てて、もやし苗にならない様に注意します。

⑤本葉が一、二枚出てきたら元気な一本を残して間引きします。間引き苗も元気なら、新たなタマゴケースに移植して育てると良いでしょう。

⑥一本になってからは用土が乾く度に、規定の二倍に薄めた液肥を水やりを兼ねて与え、しっかりした株に育てます。

⑦ケースの中でお互いに葉がふれ合う程に育ったらビニールポットに鉢上げします。

○球根の植え付け

球根は種よりもずつと扱いやすく、しかもチューリッ

プやヒアシンズ、水仙等の様に、球根内に花芽をすでに持っているものなら確実に咲きますので水栽培も楽しめます。根と、葉と、花の変化が充分に観察できるので、水栽培は教材にもなってきました。ですが、最近の秋植え球根は種類が数え切れない程沢山あって、夏植え秋咲き、秋植え秋咲き、秋植え暮咲き、中には咲く時期が来ると土に植えられていなくても、テーブルの上や棚の上でも咲いてしまうコルチカム、ステルンベルギア等、多岐にわたっています。それぞれに植え時があって、早過ぎると地熱で球根が腐ったり、遅過ぎると球根が消耗して花が美しく咲きません。買い求める時には、球根にキズやカビが無く、大ききの割に重く感じられるものを選ぶようにします。そして袋の説明書きにある育て方の外に、花時や草丈にも注意しましょう。そして何種類かまとめて混植にすると、花時が一層楽しみになります。

(園芸研究家)